

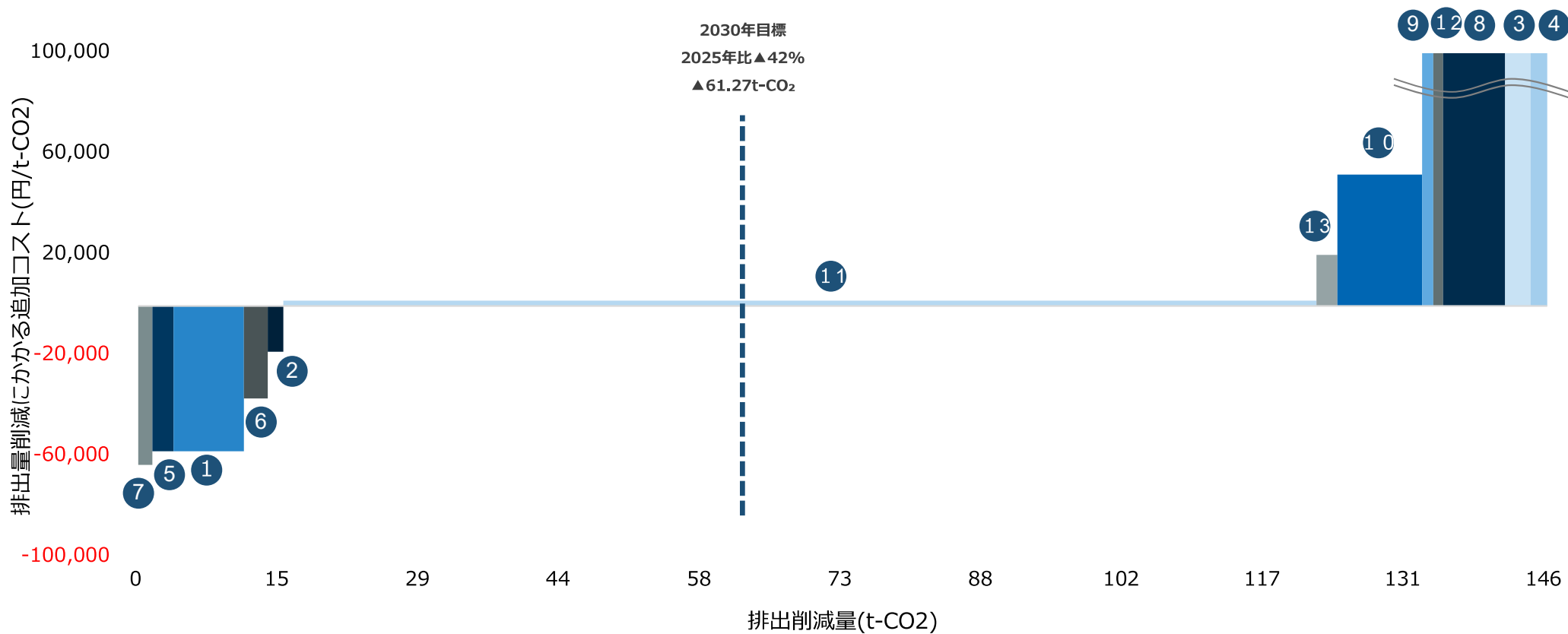
脱炭素経営に関する方針

- 脱炭素経営に関する今後の方針は、以下の通りです。

総排出量	<ul style="list-style-type: none">✓ 2025/7月時点における企業全体のCO₂排出量は 145.89t-CO₂✓ エネルギー別では、電気が全体の86%、化石燃料の使用に伴うものが14%を占める
主要な排出源	<ul style="list-style-type: none">✓ 設備分類別では、空調、整流器、コンプレッサ、加熱装置が大きな排出源となっている✓ 空調、整流器を合わせると全体排出の60%程度で、電気の使用に伴う排出の大部分を占めている
削減目標	<ul style="list-style-type: none">✓ 削減目標は、SBTiに基づく目標設定とし2030年に42%削減とする✓ 削減施策として、①再エネ調達、②省エネの実践、③高効率設備への更新の三つを費用対効果の観点から実施を進めていく。
取組方針	<ul style="list-style-type: none">✓ 2025年4月より中国電力の100%再エネメニューに切り替えており、2025年度において既に80,000kWh程度のCO₂排出量削減を行っている。✓ 全体方針として、コストが低く、t当たりコストの小さな施策を優先的に取り組む✓ Scope1は、営業用車両の走行に伴う軽油・揮発油燃焼による排出が大半。まずは安全運転の観点からも緩やかな加速や不要なアイドリングの削減等のエコドライブを推進する✓ Scope2は、再エネ調達で削減予定。今後は空調設定温度の緩和やフィルター清掃、遮熱塗料の塗布等の省エネ施策の実施により電力費用の低減を図っていく。高効率設備更新に関しては、既存設備の耐用年数や劣化状況を鑑み、随時行っていく✓ 代表取締役社長を推進責任者とする事で社内推進体制を確立する。また、算定担当者を個別に配置し、毎期算定と削減効果のモニタリングを実施する

CO₂排出量削減に向けたロードマップ① 施策全て

- 2050年のCN実現に向けたロードマップは以下の通りとなります。



2050年目標達成までにかかる追加コスト* 5,829千円/年

- ⑦エコドライブ
- ⑤コンプレッサの吐出圧低減
- ①空調の設定温度の緩和
- ⑥配管の空気漏れ低減
- ②空調のフィルター清掃
- ⑪再エネメニューへの切り替え
- ⑬CCSにより残るCO₂を埋込・固定化
- ⑩軽油のRD化
- ⑨フォークリフトの電動化
- ⑫高効率な整流器への更新
- ⑧車両のEV化
- ③室外機用の遮熱シートを被せる
- ④屋根の断熱性・遮熱性向上

*追加コスト（=コスト総計）：電力orエネルギー使用量削減額+追加コスト（設備投資の年間減価償却実施額、初期投資額）